

これまでの主な議論について

建設現場で働く人々の誇り・魅力・やりがいの向上を図るための取組みや施策の展開等を検討することを目的に、有識者委員及び関係団体、行政機関が参画する「建設現場で働く人々の誇り・魅力・やりがい検討委員会」を設置

開催スケジュール

- 第1回(H30.11.20) : 委員会の設置、建設現場の現状と課題、関係団体等の取組
- 第2回(H31.2.19(今回)) : 「誇り・魅力・やりがい」の向上に必要な視点、今後の取組方針(案)
- 第3回(H31年4~5月(予定)) : 具体的な施策展開(案)、提言(案)とりまとめ 等
- 第4回(H31年上半期(予定)) : 「誇り・魅力・やりがい」の向上に向けた提言書の策定

委員構成

有識者	田中 里沙(事業構想大学院大学学長、委員長) 野中 賢((株)日経BP 日経コンストラクション編集長) 藤沢 久美(シンクタンク・ソフィアバンク代表) 山崎 晴太郎((株)セイトロウデザイン代表) 渡邊 法美(高知工科大学教授) 敬称略
関係団体	全国建設業協同組合連合会 (一社)全日本建設技術協会 (一社)日本建設業連合会 (一社)建設産業専門団体連合会・(一社)日本建設躯体 工事業団体連合会 (一社)全国建設業協会 佐賀県建設業協会 (一社)土木技術者女性の会



第1回開催状況(平成30年11月20日)

前回の主な議論について

項目	主な議論の内容について
関係団体等の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 各団体等で行っている様々な取組自体が、点になっている印象がある。例えば、各取組をオープンソース化した、プラットフォームを作ってはどうか。
建設現場の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 建設現場で働く人々の「誇り・魅力・やりがい」の向上に向けた取組を行うに当たっては、一般の人を建設業界へ流入させ、流出させないことが必要。 ● 土木という仕事の特性上、世の中に評価される時期と働いている時期が異なるため、見える化自体が難しい。 ● 建設業界には、UI・ユーザーインターフェイス(User Interface)とUX・ユーザーエクスペリエンス(User Experience)という、ユーザーと情報の接点、またそれを通じて得られる体験価値の視点が不足している。
今後の進め方について	<ul style="list-style-type: none"> ● 広報活動には、外向け、中向けとあるが、中の方のモチベーションを上げていく取組みだけでなく、外向けに取り組んでいくことが中の方たちのモチベーションにつながり、相乗効果をもたらす。 ● 建設の魅力は、ダイナミックさ、社会貢献につながっていること、意外と新しいことだと考えている。しかし、一般の人々と建設業従事者の社会貢献に対する意識差は大きい。また、建設業界でICT技術、ロボット等が活用されていることは、一般の方に伝わっておらず、広く伝えていけるとよい。

建設現場を取り巻く状況

第1回 H30年11月20日

「誇り・魅力・やりがい」の向上に取り組む必要性

「誇り・魅力・やりがい」の概念

第2回 H31年2月19日(今回)

これまでの取り組みに対する考察

「誇り・魅力・やりがい」の向上に必要な視点

「誇り・魅力・やりがい」に繋げていく施策の提案

施策推進体制

提言(案)のとりまとめ

第3回 H31年4～5月(予定)

「誇り・魅力・やりがい」の向上に向けた提言書の策定

第4回 H31年上半期(予定)